

平成29年1月9日

No. 151

〈将来に向けて〉

今年は、NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」の舞台が浜松市（地味引佐町）であり全国から注目され、浜松の街を全国にPRし、観光誘致に結びつけるチャンスです。直虎の養子井伊直政は徳川四天王であるのび、徳川家康と井伊直虎「出世大名家康くん」と「出世法師直虎ちゃん」で浜松から出せし全国へ、浜松の景気がよくなり、街が活性化し、潤いをもたらされればと期待します。また浜松は、新幹線で降りるところではなく、通り抜ける駅だと言われているので、降りる駅になり、浜松の産菜を知って頂く機会が多くなると思います。鈴木康友市長の年頭のあいさつで、今年の大きな改革としての区の再編を掲げて訓示「これまでどの自治体も行ったことのない、浜松の将来も考えぜひ実現していきたい」。区の再編で新たなことが始まるかもしれない。浜松にベンチャー企業を集結させる「浜松バレー」構想の実現。区画整理も行い、浜松の経済が将来に向けて発展していく（礎が生まれ、新々も乗り遅れずチャンスもいつでも捕まえる体制づくりをしておく必要があると感じます。「電通社員の過労自殺」、「ブラック企業のレッテル」と働き方が変わってきています。長時間残業はもはや時代遅れであり、競争に勝つには、長時間労働は通用しなくなります。どのようにすれば、残業時間の削減が可能か、効率上がるか、離職率を下げるか、これからの課題だと考えます。少子高齢化が進んでいき、働き方が変わってきています。自動運転、AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット化）、省エネ、介護、トランプ米大統領、何かもつがみ、進みたいと思います。今年こそは、計画、行動、実行したいものです。

高林幸裕